

「美ヶ原（うつくしがはら）」は、長野県の松本市、長和町、上田市にまたがる高原の総称です。私はこの高原に思い出があります。小学生の時、同級生の女の子の家の別荘があって、時々泊まらせてもらったのです。子ども心に、高原の荒涼とした美しい景観に感動した記憶があります。それ以来、何度か行った記憶はあるのですが、最後に美ヶ原を訪れたのは、間違いなく30年以上前です。

美ヶ原は地理的にも長野県のほぼ中央に位置し、周囲に遮蔽地形もないので、放送や通信の鉄塔がたくさん建っていて、それが景観の特徴の一つになっています。私が何度も訪れた、スウェーデン北極圏の「ドゥンドレット山」の風景にとってもよく似ています。

草原状の山頂付近には「美しの塔（うつくしのとう）」があります。美ヶ原をい紹介する写真や絵はがきには、大抵この塔が入った構図になっています。この塔はもともと「霧鐘塔（むしょうとう）」の一つで、霧の日にハイカーが道に迷わないように鳴らすためのものです。現在は一般にGPSも普及し、本来の役割はほとんど終わっていますが、観光客には人気です。自由に鳴らすことができるからです。この塔に使われている「ふき石」は、このあたりで産出する「鉄平石」（輝石安山岩の一種）が使われています。この日は、高い空に巻雲が美しく、鐘の音がよく似合いました。

(2024年8月上旬／長野県美ヶ原)

